



釋迦御一代記圖會

二

~13
4292
2



4292
.2

撰迦御一代圖會卷之二

目錄

- 著聞診脉摩耶勸墮胎藥
- 老翁相摩耶說胎内皇子高德
- 相者們討論摩耶夫人容體圖
- 摩耶夫人夢裡聽十恩說
- 藍毘尼園催花宴
- 悉達太子降誕現天地瑞異同圖
- 摩耶夫人逝去
- 悉達太子入學阿私陀仙示三十二相

大迦圖會卷之二

山本彰氏
1991.4
寄贈

91-1437



釋迦御一代圖會卷之二

冥闇診脈摩耶勸墮胎藥

浪華好花堂野亭考選

淨飯王八府耶夫人懷妊有_レ一_レ皇子の誕生_レ成待_レま_レと一日三秋の思を_レ一_レ （此の皇子は淨飯王の御子なり）

如_レ小己小三年_レ成_レ往_レも降_レ誕_レの沙汰_レな_レを_レ酷_レと_レ睿慮_レを_レ煩_レせ_レし_レ群臣_レを_レ衆_レ （此の群臣は淨飯王の臣なり）

て_レ評議_レあり_レ此_レ更_レ如何_レある_レと_レ問_レせ_レし_レ三_レ大臣_レも_レ月_レ卿_レ雲_レ客_レ冠_レを_レ傾_レけ_レ首_レと_レ疾_レ （此の三大臣は淨飯王の臣なり）

一_レの_レ議_レ論_レ區_レ々_レ古_レ今_レの_レ例_レを_レ考_レき_レも_レ胎_レ孕_レ三_レ年_レ小_レ己_レ一_レ先_レ蹤_レを_レ定_レま_レし_レ （此の胎孕は淨飯王の胎なり）

是_レハ_レ疑_レら_レハ_レ病_レ病_レの_レ所_レ為_レか_レる_レと_レ衆_レ議_レ一_レ致_レ一_レ其_レ旨_レ啓_レ奏_レし_レを_レ淨_レ飯_レ王_レ （此の衆議は淨飯王の臣なり）

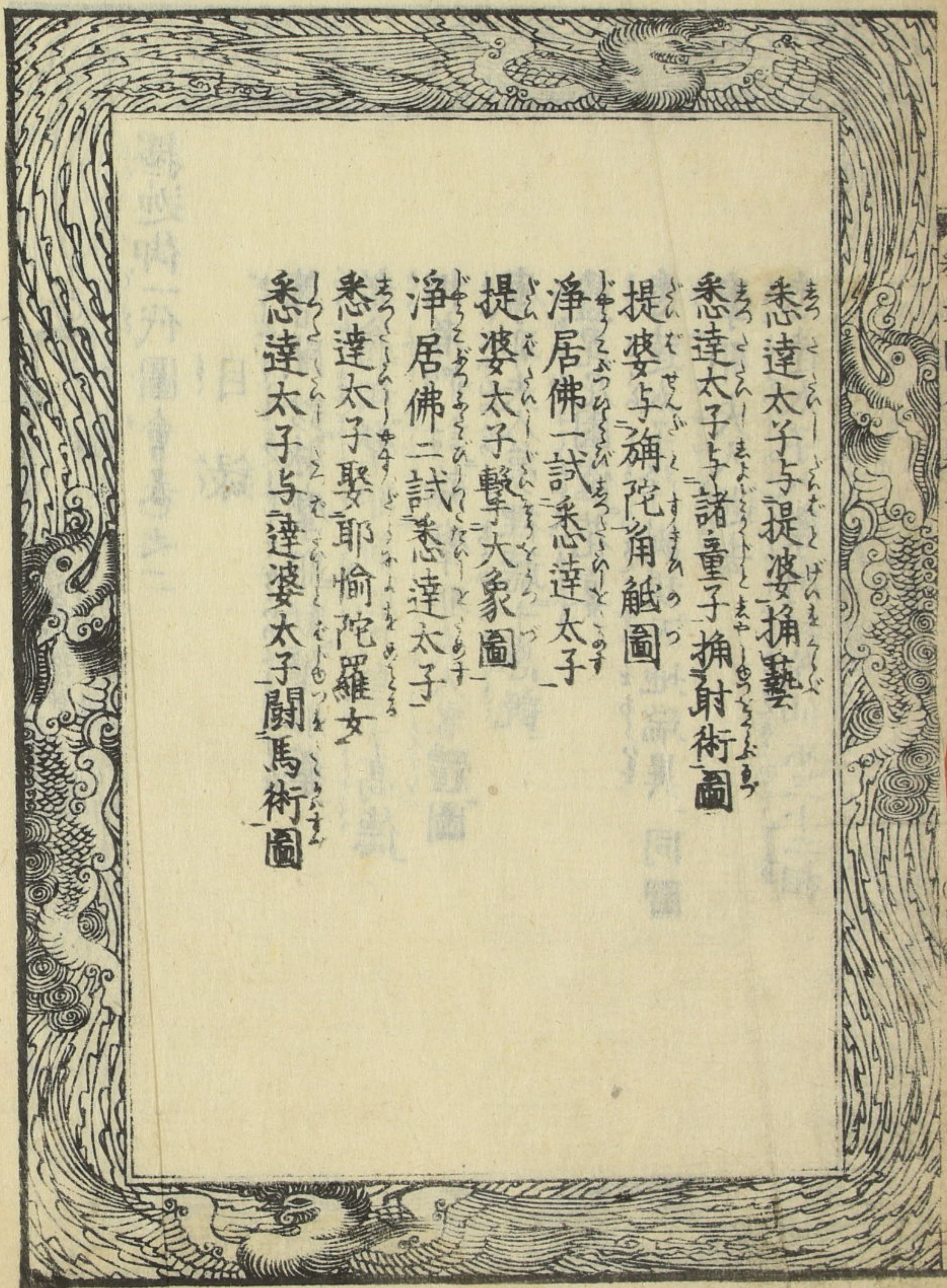
始_レ正_レし_レた_レ夢_レの_レ告_レハ_レむ_レり_レむ_レひ_レか_レる_レ疑_レ心_レ暗_レ鬼_レを_レ生_レむ_レか_レる_レ諸_レ臣_レの_レ約_レ小_レ却_レ心_レ迷_レひ （此の疑心は淨飯王の心なり）

出_レし_レて_レ四_レ天_レ下_レ小_レ名_レを_レ得_レし_レ典_レ藥_レ官_レ成_レ召_レ寄_レ病_レ根_レを_レ推_レ究_レめ_レし_レ速_レ小_レ治_レま_レし_レ丸_レ良_レ劑_レと （此の丸良劑は淨飯王の薬なり）

調_レし_レ夫人_レ小_レ勸_レま_レし_レと_レ勅_レ提_レある_レ是_レ小_レ依_レる_レ遍_レく_レ百_レ國_レ小_レ船_レ渡_レし_レ摩_レ耶_レ夫人_レの_レ病_レ源 （此の船渡は淨飯王の船なり）

成_レ脈_レ察_レま_レし_レ良_レ医_レを_レ尋_レ需_レむ_レ茲_レ小_レ子_レ淨_レ國_レの_レ医_レ官_レ小_レ著_レ聞_レし_レ者_レあり_レ幼_レ女_レ （此の幼女は淨飯王の女なり）

医_レ術_レを_レ好_レむ_レ普_レく_レ名_レ医_レ小_レ從_レ以_レ学_レし_レ四_レ百_レ四_レ病_レの_レ治_レ法_レ知_レま_レし_レ更_レか_レく_レ死_レを_レ起_レし_レ生_レ （此の治法は淨飯王の法なり）



悉達太子与提婆拃藝

悉達太子与諸童子拃射術圖

提婆与旃陀角触圖

淨居佛一試悉達太子

提婆太子擊大象圖

淨居佛二試悉達太子

悉達太子娶耶愉陀羅女

悉達太子与提婆太子闘馬術圖

四の妙術ありて一度脈を診て其病根を察せしむる事なり也一も財宝を貪
るの癖ありて浄飯王の医に召して妻成す大の怡い吾迦毘羅城に至
り摩耶夫人の患病を療し莫大の恩賞を得ん其妻小産して摩耶陀
園の上より橋曇彌夫人の附人馬將軍八田織丸を先月景城に至り馬將軍
小對面し召小産して上り首を告し馬將軍暗小悦び人を拂ひ暮闇小
細く曰摩耶夫人笑ハ妊娠をせしも出産遅々小産ふ故り也患病の所為
うくく緒國の名醫を召す所をきても卿小勝る者あり何卒夫人を診
脈せし妊娠の妻を抑隠し患病なりと告ぎ密小墮胎乃薬を勸う胎子と血
水とをり得させよとせし恩賞を小任と命と頼小素り貪慾の暮闇
かれを一織丸小産せし是を肯ひ別を告ぐ朝廷へ出さる小早緒列より召小産
しより取り取る医官百人絆相結居より星光臣緒医官を廳中列坐させて
くくく医術の理を討論せし其能不能を試しん小産維有て暮闇が右小

出る者ありて星光臣緒ハ著闇と天下の良医なりとて其首奏せし浄飯王
皮小ひびきし戸耶が容軀を現る胎孕の患病者定る若懷妊ありて安
産せし良薬を勸め亦病病なりと速小平愈せし良方を配劑せしと倫言
ある暮闇敬て勅命を奉り心裡小仕とせしと怡い昔陽城小至り烏將軍
小面編し王命のかりむを述る烏將軍ハ夫人の懷妊是ハ非小成弁じ
し拍かれを甚く怡い方を謝して懇乞諸夫人小見ハ王命のかりむを告ぐ小夫
ハ孩れ小産小想せし過はる夜正した蓋夢想の告然小ひさし妊娠者も更疑
るく由ありて臨産のかりむ妻ハ渠道師が咒咀の所為なり心長く降誕の期を待
しと示し小假令勅命をせしと小女小医薬成服し若胎内の皇子小過ち百
かし悔とも及らし是ハ如何とせし身独胸を痛む小産し思ふハ烏將軍小向
船が妊娠尋常小易り已ハ三年成胎せし降誕ありしれ帝成り難きを患病
のこころ思ふハ理ありし船ハ皇子を孕せしと成定ふ知しあまき今更醫師

小委ねて死のあらしむ御さるる御奏して醫師を回し仰々鳥將軍推す仰々
さるる更ふいふも渠著周が告御懷妊をも速小御平産あふ良菓を勧む患
病かこし頃御平愈有る死の医療をありまんと更ふいふ一度診脈をせし其
医家然中其上御意合は心綱薬を服用し更ふいふ何なり中勅命然奉り
く悉く者空を空し一画し久く違勅の思をいふこと練ふより夫人已更を得
むさるる左中右中と銘ゆ鳥將軍頃著周を夫人の座前招死猜く脈察は
もりのいし命さるる著周畏り敬で夫人已不容軀を窺ひ診脈をより正胎妊
ゆふ違勅の馬將軍は終つ久是を患病といふ産胎せむる時八朝廷の思賞と
馬將軍が賞禄と両が是を得一時小富貴を極めんと肚裡小思惟一伴と眉を
頻々恐あも更ながる夫人の御胎内懷妊小似く懷妊かると是悪血凝結ぶ血塊
となり累年小増長して今已胎孕し如く是胎と難治の症なりされも吾が家小
希代の良方あれが綱制して奉る第一七日間心向を服用しおる不日御平愈

かゝるを巧みなり。夫人更むいふ。又二層の夏を增心裡小思ふらく此の医
道小精々を胎が懷妊を察せむ。患病といふ医家甚や中らるる若渠が綱薬を
服せむ胎内の皇子を害せむ。然るも王命小依て未ける典薬の煎を服せむと
違勅の外をさむり久是は何とぞと思ひ猶豫沈吟ておる。上八軍を將軍早
其色成悟りか。著周小向良医已診脈して病乃所為とやまら上八軍を下
し吾時小是を進むる人と云々ふと著周領掌して産薬を綱合し。諸鳥將
軍小縋て曰今日殿中より緒道より召小應とて参り聚りたる医官們と医道の二編
典を討論するも悉く庸医小て医乃秘決を知者なり。敢て吾此綱薬を見せし
更又勿き見せむ。已が知る更を推裏綱薬の可るを給し。自是夫人の疑念を
了本に徹底とた良利。却て知を養ふ更なる事と誠をいふ。是産薬
毒薬なる更をさるる巧みなり鳥將軍是を定て。平信平疑か。心
首あらし伴と承りし。休む著周を回し。其後平信平勤仕する典医を招きて

著者 綱葉を鑿釘せしむる此輩も著者大名の忠告せし其法は何の三割
 の解せられも著者合方なりを定む深丸医家方なりと臆曲し実中后妃の御容
 骸小官中妊娠しと思ふも血塊と入し八草見ゆ此法最良なりと云ふ
 烏將軍也此者の杜撰と云ふも借著者國の医家必のせりと心を女小夫人其田を
 言し服用し久しを勸む夫人を初より服薬をたれ意なきも唯浄飯王の昏悪
 を安んずる為なり脈察を辨せし渠已の懐妊ありと云ふを以て此者の綱葉服
 薬を心忌薬湯を用る時を暗小後園の捨るを是れ依著者國の巧針中
 画餅と云ふ落胎の汝汰中けり増て降誕の氣ハ猶有りなり然るに彼薬湯を日々
 後園小捨らる其餘流園中かなれ入挿かふる草花是が為か拈葉を著者忠告
 嫁女初りなり心著者なり果ハ覺り夫人小斯と告る小后妃後妃の御容を初
 より妊しと思ふ也よと愈身を慎む他の医官綱葉薬を敢て用ひ玉ふを
 しく流し小捨るをせられり

老翁相夫人奏胎中皇子高德

朝廷小日小戸耶夫人の容骸を紡を少ふさくて妻一更ゆり病中愈むと降誕ゆ
 かなれを浄飯王昏悪を悩ませ玉ひ亦群臣を召聚り詮議あり已小医藥効を奏
 せざる上八百針盡す此上天下小觸りて觀相小堪能ある者を擇出し夫人を相
 させ患病し妊娠し成定めりちよと宣言ある諸大臣王命を畏り諸國に紹命成傳へ
 相者を召る小者相小名を得し輩年来の琢磨を顯せし此時ありと我れくと召小
 應じし如毘羅城に参り集る者已小百小ありね浄飯王此より昏悪あり悉く堂に
 諸相者を召る侍臣を以て紹ありるハ耶夫人の胎中真乃及る患病の所為り
 精く看相せし能見究る人者小若干の莊園以下と云ふ一の御妻あり相者一舟
 小拜伏し王命を領掌して官使と俱小青陽城の宮中小至る官使ハ烏將軍小對面
 云々の首通達しなれ烏將軍後宮小入り夫人小斯と言ふも小后妃亦憂む小能
 深園小引籠り年々沐浴せし梳らるを然る小夢の相者小見人更をばし

此支のハ勅符を願ひて辞少く鳥將軍皮て仰る支小のハ大王御身の上を案
煩名を以て或高徳の驗者小祈禱を或緒國小名医を需ら今亦天下小名
相者を召聚少く御身を愛幸し又帝恩かり然るを辞し少く違勅の科
を免まむ何支の君の御為御身の為と思召相者小見玉と夫婦言成事して
練々少く后妃已更を得と玉殿小出帳を垂く相者を一人は召入
て親相をせし是小依て百人の相者少く后妃の御前小出其玉貌を相
る小天のたせも美人少く久し御惱小稍面瘦むも素雪の肌あやも挑李の面
嚴く小壁小物あり后妃の顔小向やの者其國色小眼を奪れ恍惚と酔
が如く痴方もか如く東小懐妊病病見分る思返く熟看相鳥將軍
小對し后妃を相しなる小妊娠の表小御肢の脹大なるハ必定疾病の所為
ゆくいなると告始一人とり九十九人少く大日小異とあまも皆妊娠小あま
是血病かり但し妖邪の障碍あり人と云々小唯百人目一人ハ老翁あり

髪鬢髮悉く皓白く雪を被が如く面小皺の波をく腰弓乃如く屈
藜の杖小をかりて后妃の御前小進相貌を熟とく潜生と涙を流し左右の
由發せと唯ひ入る鳥將軍大不弔り答て曰先より九十九人ハ相者者相
各其かり所を迷る小翁入左右の考文成り告と涙小のむせ六頗る奇姪あり
所存の不一疾々生を叱り多小翁よく涙を拭て云々御不審の上御
理のいさか九十九人の相者い玉例を定規と馬を蹶龜の蟠る更を
公卿尊夫人ハ玉貌を相しなる小御患病人ハ露不も在る是正し御
妊娠小然も三十二相千種好を備徳天地小等ハ元皇太子ハ在せり唯恨
らくハ邪魅惡靈の障碍依御誕生の遅延更も亦雨々を後小耶夫人
公卿の釘を以て歡喜の色顯き此公卿と天下乃博識よ最嬉しく思召
猶何支も曰く鳥將軍ハ御懷妊とて心勇た亦難く曰是ま名譽の典医
皆御患病と今亦多くの相者ハ病の所為と考告小翁入御懷妊と珠小二十

二相十種好具足せし皇太子とす小燈跡ありと向翁答て曰老夫不敏小のりも后妃を觀相せし天耳通とす普通の相者の窺ざる秘法あり九曜七曜廿八宿十干十二支三十六禽の星を配當し天地二にを勘考し五龍七道五陰七儀五位七徳を分て四神相應の理を考し六明大有三寶十二運を配列して陰陽男女の位を見定む心奉を以て大地の掌をとりしと考文帥も違ひなく白鳥將軍亦曰汝左程看相達し皇太子胎妊をて見定むる上上二人より下萬民をくの幸福をた慶賀をこととるを却て忌むく涙を催を是如何と答む翁亦曰主人下官老をく忠んをされと申變なり貴人の御前より不吉の涙を流しハ恐ても猶余り有然る其理を言すも人前より西夫人の胎内小孕せむ玉乃如皇太子小刀劍水火の上小産落しおすも故て御命小障難降誕しあなを也等も四天下小王とて轉輪王乃位を踐む太子ありと必も出家學道して妓覺無等の法位小昇り一切種知と成清淨法輪を轉し天人俱小利益をふむり五百の大國三千の中國無量の粟散國の

一切衆生を濟度し諸願を満しむ法王如来と成むるを皇太子也とてせむは下官の老年積りて九十余旬現成りぬ身中てい皇太子の學道成就し一切衆生が化度しむるを結縁の湧ん吏の悲しむ覺むる落涙のりて亦涙をこれ小を夫人大小感歎まじり実りも相せし翁も今汝が約を度て躬が胸中風雲霧の散し如し鳥將軍翁小被物を与俱小玉宮へ奉て考文のむむれを奏せしと曰帳内深く入す鳥將軍承り數多の金銀絹帛を取出して与る翁袖を拂く一物も受む再三勸まじも猶固く辭しを為方なく翁を伴て玉宮へ奉り公羽が勳文の上其具小啓奏しを浄飯王二度八倍の憂ひも其怡ひも所以八后妃の懐妊は天吏也とて白皇子刀劍水火の上降誕し御命無咎との議其憂ひも所出の出生の皇子十善萬乘の宝位を望むを出家學道しむるの事なり然れども百人の中唯一人姓娠なりと見定り吏未曾有の相者ありと睿感斜ありと其後莊園を与行んと宣言ありも翁猶固く脚辭退し上杖を曳て退出し其後

王命依て官人們其踪跡を尋りて捜すも絶て行方を知者もたらず

摩耶夫人夢裡聽十思説

日月の傳らざる更絃を放き、奔前山を下る流水に似、早如月も過弥生、暮て已小卯月、わがうなる、朔日の夜摩耶夫人間眠り、夢乃裡、以前願、わがひ、皇太子、子亦胎内を分て出、わがひ、后妃の枕頭、わがひ、居、わがひ、以前不見、わがひ、より、長延勝り、瑠璃の御髻、肩を過、微妙の御声、わがひ、母夫人と呼、わがひ、母夫人愛心、わがひ、起上り、わがひ、ひ、又愛、わがひ、覺、わがひ、太子夫人、わがひ、對て、宣、わがひ、嬌曇彌夫人の惡念、消滅の期、来、わがひ、丸、降、延、乃日、遠、わがひ、明日より七日、間、能、わがひ、御身、を敬、わがひ、ま、一時、乃、噴、志、わがひ、俱、脏、切、の善、根、を、燒捨、わがひ、更、な、れ、を、ま、十、相、魚、漏、の、大海、小、真、怒、の、浪、を、更、な、く、瑠、璃、真、如、の、月、前、横、障、乃、雲、覆、く、し、乃、抑、九、宿、世、乃、因、縁、小、乃、乃、后、妃、の、胎、内、を、借、な、る、母、乃、十、思、報、む、る、期、有、へ、今、宣、せ、母、乃、十、思、於、御、佛、を、宿、進、む、更、此、身、の、教、何、更、身、亦、過、ら、れ、を、わがひ、あ、ま、さ、い、今、宣、せ、母、乃、十、思

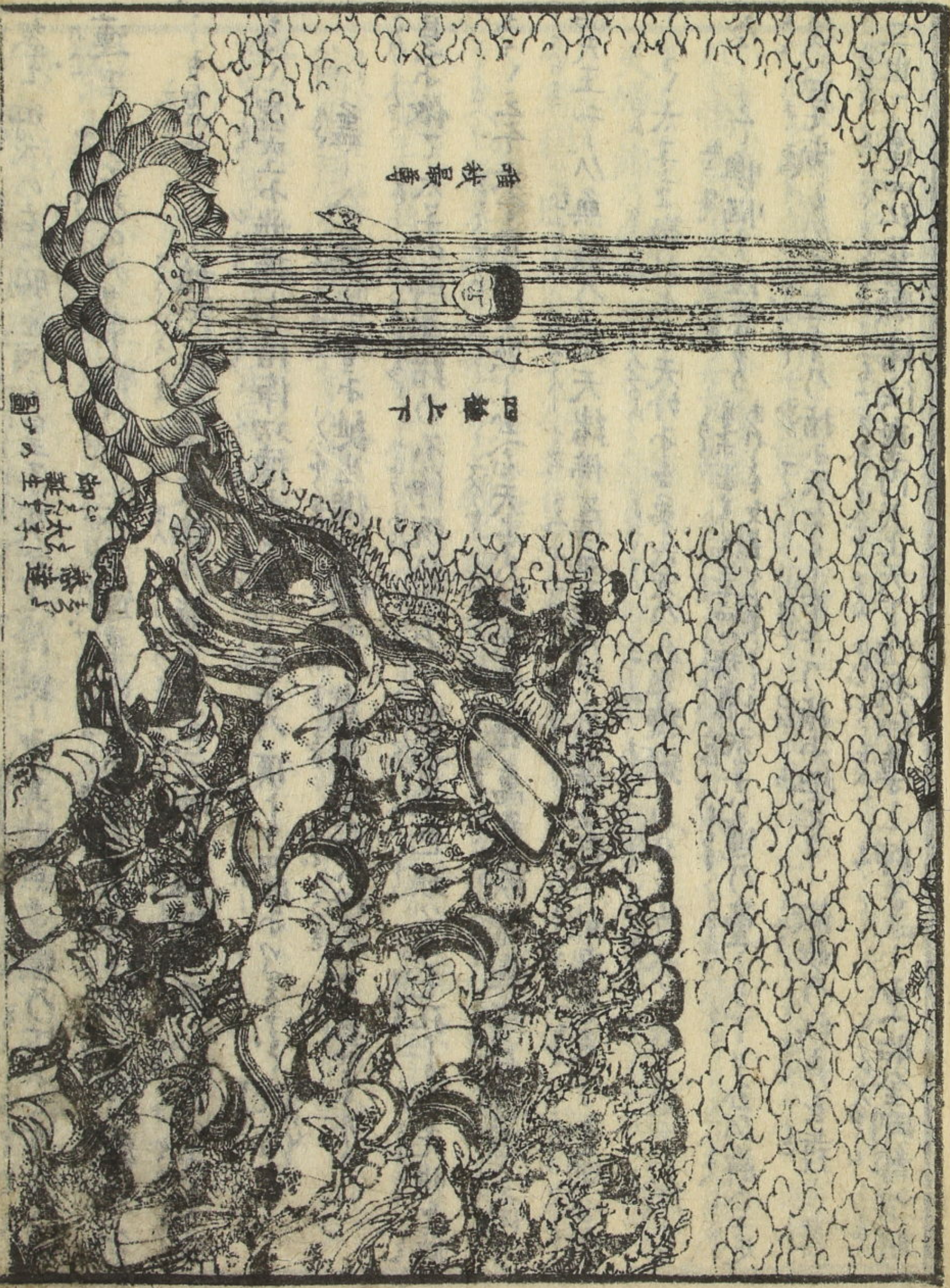
と如何方も更を中、願、わがひ、説、ま、む、と、向、わがひ、太子、點、首、て、曰、く、弟、一、懷、胎、主、護、乃、思、と、乃、休、ま、あ、ら、む、と、二、飲、食、禁、忌、の、思、孕、て、より、五、味、乃、味、を、失、ひ、朝、夕、食、を、其、み、と、過、欲、ま、る、食、味、あ、り、と、禁、毒、を、怕、く、敢、て、食、せ、と、三、臨、産、受、苦、乃、思、已、小、産、乃、氣、甘、朋、て、疾、痛、五、臟、を、裂、か、如、く、八、寒、八、熱、の、苦、患、と、争、ふ、身、小、勝、ら、れ、四、小、生、死、安、夏、の、思、産、小、臨、汚、穢、不、淨、乃、を、わがひ、死、成、も、厭、む、と、五、出、生、の、兒、乃、五、鉢、具、足、せ、入、更、を、耳、に、た、し、五、小、初、声、聞、夢、乃、思、已、降、産、心、遠、く、魂、消、夢、小、夢、乃、如、く、羊、生、乃、向、わがひ、一、度、初、声、耳、小、入、我、身、乃、死、生、を、忘、早、愛、憐、乃、心、珍、増、健、小、成、長、せ、入、更、を、願、其、慈、悲、心、何、を、以、て、確、言、を、わがひ、六、小、養、育、覆、衣、の、思、初、衣、を、始、と、て、寒、暑、の、衣、服、小、心、を、由、と、冬、ハ、温、小、夏、ハ、涼、く、春、の、日、長、と、小、花、を、足、を、と、乳、房、を、含、め、夏、の、夜、短、と、小、緒、虫、を、も、と、ひ、て、夢、中、結、む、と、七、小、親、疎、朋、友、の、思、稍、成、長、と、他、乃、小、兒、と、交、り、遊、く、乃、吾、が、子、ハ、も、と、一、り、他、人、乃、子、亦、小、食、物、を、食、ら、ず、(遊、戯、乃、具、を、備、其、穢、濁、を、量、る、是、子、亦、小、一、思、乃、余、也、

八の遠路遊行の思緒成長て遠國他境(往)て其身の家小面(れ)も心(俱)我
 か子の行方をかりの家路(小)回(る)時(ま)く胸(を)休(む)る(ひ)ま(り)九(六)産(悪)蔽(覆)乃
 思(我)子(と)り(罪)を犯(せ)他(人)乃(見)字(人)妻(ハ)小(及)ま(り)又(小)さ(覆)ひ(隠)し(或)其(罪)を
 身(小)家(り)時(々)小(練)ち(正)ま(其)苦(苦)偷(人)方(を)十(小)壽(命)因(福)乃(思)我(か)子(疾)病
 あ(ら)と(れ)天(小)祈(り)地(小)待(り)葉(餌)乃(為)小(心)身(を)勞(し)甚(し)不(至)て(我)余(小)代(人)と
 成(願)上(乃)慈(母)の十(思)と(ひ)く(六)天(子)より(下)民(家)の末(子)と(も)身(小)清(さ)る(者)を
 侍(ま)と(仮)令(雪)中(小)肉(を)さ(り)氷(上)小(骨)を(削)る(も)我(身)代(り)て(争)う(此)大(思)お(う)報(す
 ろ)こ(し)以(得)な(れ)増(て)况(や)丸(を)三(年)回(胎)内(小)中(り)幾(許)乃(憂)成(る)を(深)思(す)千
 劫(万)劫(徑)る(も)敢(て)報(し)ま(り)と(宣)小(を)摩(耶)夫(人)身(小)ひ(く)と(思)あ(う)む(ひ
 我(か)母(君)も(ま)こと(無)量(の)苦(悩)を(結)胎(を)産(む)ひ(人)を(唯)と(ふ)ん(捨)ち(ま)る(の)勿(昧
 何(や)母(夫人)遇(り)妻(を)悔(む)ひ(と)入(回)乃(齡)を(天)上(乃)壽(小)く(ぬ)ま(る)愛(幻)の(如)

唯(無)為(魚)漏(の)樂(と)を(真)乃(中)の(真)あ(り)朽(せ)ぬ(契)あ(り)侍(り)親(と)り(子)と(産)れ(衆
 生)の(願)を(充)ん(と)と(魚)上(大)利(乃)切(德)を(傾)て(母)君(と)も(御)父(淨)飯(大)王(小)對(面
 乃(と)も(人)妻(の)嬉(し)と(后)妃(小)ひ(と)抱(着)む(夫)人(も)志(と)抱(れ)り(む)ひ(嬉(し)と(若)宮
 誕生(す)む(先)鳥(將)軍(夫)婦(小)せ(く)悦(む)と(と)檢(起)人(と)て(縛)お(蹶)れ(什)ふ(と
 思(召)む(愕)然(と)て(御)愛(覺)お(り)后(妃)忙(然(と)て(掌)の(玉)を(失)ひ(心)地(す)む(ひ(さ)る
 借(夢)乃(告)成(か)ひ(け)け(む)お(も)太(子)誕(生)遠(く)な(れ)妻(を)知(召)七(日)回(重)死(願)と
 曰(ひ)妻(を)心(ふ)し(羽)聖(る)朝(上)り(身)を(淨)め(各)して(六)波(羅)密(を)修(し)入(乃)眼(小)ん(え
 とも(と)も(天)人(二)耶(夫)人(乃)左(右)天(降)り(諸)乃(飲)食(を)捧(て)供(養)し(と)り(む)ひ(と)せ
 藍(毘)丘(園)催(花)宴
 斯(て)卯(月)五(日)小(至)り(淨)飯(王)朝(廷)小(出)脚(あ)り(禹)棧(乃)政(を)止(め)所(小)月(卿)乃(中)り
 瓶(子)小(魚)憂(樹)乃(花)を(拵)して(献)上(す)乃(淨)飯(王)は(く)と(ん)む(天)慶(了)花(乃)色
 乃(朕)園(藍)毘(丘)苑(也)此(魚)憂(樹)あ(り)て(毎)年(小)盛(乃)頃(と)花(乃)宴(を)乃(君)臣(樂

成しゆおせしふ。耶夫人妊娠してより二年三年此妻を忘りし。これ入花の悪態を見
 る時、憂愁を忘る飲を生じ。朕此程を朝政遣ふ。久し摩耶小對面せし。まづ八
 日小藍毘丘苑ゆく。花乃官女を催し。耶夫人を慰ふ。思ひ。不知夫人肯する。や
 尋きしれ。と紹あら。近臣王命を奉り。直小昔陽城。至り。烏將軍お就。宣旨
 のかりむ。を傳え。夫人大不怡。ひひ。先夜夢の告小遠。と母夫人を。と。御又
 淨飯王小對面。と。胎内の皇子の宣ひ。此折あり。と。慎。領掌の旨。と。回奏
 一。勅使を回り。斯と奏聞。と。月景破利遮那吐那里乃三宮。と。先
 後宮の女官月卿雲客。當八日藍毘丘苑ゆく。花乃宴を催。と。先。各泰集
 して。由。彼園中乃清瑤殿を莊嚴。其殿を。と。勅。ある。臣下
 奉り。緒宮妃緒臣下。勅命をつ。俄小藍毘丘苑を灑掃。清瑤殿を修理。在
 嚴を。御事。御幸の。程。八日。成。先。十萬。四兵を。て。四
 淨護。せ。亦。千人。乃。殊。女。容。顏。端。正。し。て。老。と。女。と。な。才。知。勝。た。る。者。を。擇。む。五。色

の衣を着せし。管侍の役。亦。千の顔色。美。麗。乃。童。女。年。齡。奇。く。身。材。長。短。お
 き。採。擇。し。瑠。璃。彩。衣。を。着。せ。香。華。を。執。り。淨。飯。王。王。冠。を。戴。け。宮。鳳。乃。御。衣
 亦。穿。し。七。宝。の。輿。車。小。乘。り。月。卿。雲。客。前。隨。後。從。り。藍。毘。丘。苑。入。り。月。景。梵。天
 王。乃。威。德。亦。お。り。お。り。者。眼。と。お。り。其。次。小。月。景。城。乃。橋。雲。雲
 彌。夫。人。身。乃。粧。裝。心。乃。約。お。り。お。り。粉。歩。數。多。り。女。官。小。圍。繞。せ。し。彩。鳳。乃。輦。小
 乘。て。入。り。其。次。破。利。遮。那。城。乃。好。容。夫。人。其。次。吐。那。里。城。乃。芙。蓉。夫。人。其。余。後。宮。三
 千。乃。女。官。今。日。を。曠。し。各。粧。裝。を。し。美。麗。を。究。り。清。瑤。城。泰。集。を。殿。中。の。中。央。小
 淨。飯。王。乃。玉。乃。牀。を。設。け。左。小。耶。夫。人。乃。坐。其。次。芙。蓉。夫。人。乃。坐。右。橋。雲。彌。夫。人
 乃。坐。其。次。好。容。夫。人。乃。坐。其。余。女。官。兩。邊。小。居。流。是。二。階。隔。り。三。天。臣。乃。月。卿。雲
 客。冠。を。り。袖。を。連。て。並。居。り。時。小。淨。飯。王。女。官。を。召。し。今日。乃。大。宴。の。至。り。耶。小
 定。め。り。疾。く。迎。き。し。れ。と。宣。旨。あり。女。官。畏。り。曰。耶。右。妃。大。王。乃。以前。小。輿。を。促
 一。此。園。入。り。せ。玉。乃。大。王。乃。睿。慮。を。憚。り。後。宮。小。待。り。い。さ。緒。と。し。人。と。し。其



唯狀最壽

四種上下

御
大
林
生
五

忽ち御衣の右の脇を閉じ、皇子突然と降誕し、其時魚曼樹の下小七宝七宝の蓮華生じ花の大車輪の如く太子蓮華の臺に墮ち、今た二流の塵とて、
一由心慈くして難陀龍王優波難陀龍王金色二昧の龍神と現し、八色の光を放ち、
ちく虚空に飛揚し、清淨功德水を雨し、太子の頂より四肢のくまなく洗浴を
蓋し、今佛生會に誕生佛の像、千歳菓を洒、此義を表せり、
是に依て太子の御身緒乃不淨洗ひをれ、黄金の色頭、是毛孔より大光明を放ち、
ちく之千大千世界を照し、天上の梵天帝釋、萬眷族、增長、廣目持國、
四天王、及び無數の緒天、緒佛、薩無未降、妓樂を散し、妓樂を奏し、金剛合掌
し、太子を敬礼、あつ天外、第六天の魔、撞頭を令し、永く我道長成を
る、とて懊惱し、泣き、是をを、三十四の瑞應、太子の蓮乃臺より下り、玉ひ前、三足
後、四足、歩む、ひく左手乃指、天をさし、右手乃指、地をさし、微妙乃初声を、
三世の達四弘誓願、緒法塵内、天上天下、唯我独尊、之師子吼し、又胎金剛部、智明

蓮華部より、耶夫人太子を産む、少の苦悩あり、心禪定不々如く、無生法忍
乃形を収め、魚曼樹の下、小憩、小成、坐し、靈泉涌出、其水香潔、
れ、橋曼彌夫人傳乃を、命、耶夫人乃御身、其水を、洗ひ、淨り、
夫婦、錦乃袍を、太子を抱き、殿上、昇り、淨飯王乃睿賢、
乃瑞相を、眼前、見、今亦、皇子を、足、王乃如く、三十二相、八十種、好具足
し、歡喜、踊躍、不堪、殿上、殿下の、諸人、勇、悦、皆、萬歳を、唱、慶賀、
り、大王、烏將軍、命、耶夫人を、尊、乘進、世、青陽城、還、
八橋曼彌夫人、抱、せ、御身、慈、駕、
百官、前後を、供奉、王宮、還、
摩耶夫人、逝去
茲、不思、議、
亦、五百王、乃、
亦、五百王、乃、
亦、五百王、乃、

繁と曰ひ上は定まれる命敷を知無上善授小のりあま更明く深くお歎たむに
 小御酒をくめよ吉陽城へ御幸有る。后妃乃亡骸小
 對ひよふ花乃顔生あふ如く此も容色変せよと愛慕る念を禁どむよ
 此此終宮中小苗まわし思召を理りわりたる出で臣下乃練奏黙止がらむに
 亡骸を収て香木の棺小籠遺言をれむ夕陽山小送り種々乃供養敷を盡し
 終小香薪を積りて茶毘しあふ意呼心ひかさすも縛約ちをし桃李の姿あ
 度無常乃風小解さ夕陽山下乃煙と俱小消ぬ哀事ありし法吏たり斯てその
 玉骨を七宝乃器小拵納地景をとて埋葬す。監毘屋園乃主日墮殿を夕陽山
 小移し十六丈乃宝塔を建廟前小無憂樹を移し植させよ後年世尊成
 道して迦毘羅城へ還幸すむひ一時青瑤殿を梵刹とす。河摩耶山切利天
 正寺と号むひたり。茲小橋曇彌夫人乃傳官馬將軍公耶夫人乃逝去あふと
 出く深く慚愧し。主命あふ兄咀をり墮藥を勸め罪乃深きよとて我と

先非を悔き氣の病を發し。大耶夫人薨去の後十五日あて終氣死たりたり

悉健太子入學阿私陀仙示三十二相

結鏡橋曇彌夫人を深く前々の罪を懺悔しむ其罪を償ふ小皇太子を我
 守傳をもよ浄飯王す。皇太子の爲小新小三時殿を建む。夏涼小樓閣小
 太子を生す冬ハ温かる殿裏ゆく育めり。衣服服飾花麗を極むこと
 乃。斯く若君三才成むに秘て悉内をせむ其容貌を睿覽あふ胎内
 三年居あひる其る六七歳行乃如く。言語動止則小合ひ天乃方會す王顔光り
 小許をれを御怡斜かると。文道乃博士を召れ。皇太子乃名を撰せむ。博士は
 敬て奉り古乃尋新を推て儀論し。皇太子乃王小奏さる。皇太子御降誕の時三十
 四乃瑞焦せむ。諸乃奇特悉く達せむと。更を因り御緯を悉達太子と呼
 なるのハむと。中を帝睿感淺く。此名甚小好とて。數乃賞禄を博士に

おもひ夏下り緒人皇子を悉達太子と称し尊敬せしむる大なる方とて鳥將軍ハ
 太子の目を小悪く生まむを思ふもた耶夫人此世に在む何ぞも悦ばざらんと思ひ
 懐旧の涙を流さるる。せむく夕陽山の廟太子を結さるる。則ち母后妃の尊靈を慰む
 進せしむる。情曇彌夫人其妻をすよふ実を心付らば。さても妹夫人の婚しと
 思召らるる自由且夕忘る。ひまかり幸ひ卯月中かみふ。来入八日太子を伴ひ夕陽
 山へ結を。此度大王奏せし。命。鳥將軍領掌し。参内し。廟の義を願
 小子細かく勅許ある。是れ依て情曇彌夫人嫡母小皇太子を守傳む。鳥將軍夫婦女
 官敷多召具。輿車小兼して夕陽山の廟へ参詣する。松柏蔭に。草花を。鳥
 雀物然。け。啼風ふる。袖の泪は争ひて。盛者必衰の理眼前小。人朝の
 前小。植れ。無憂樹の花。昔か。小咲ぬ。手折し。主六苔の下小。朽果。さ。ゆ
 七玉莊嚴の宮殿樓閣の。任人。荒の。勝り。空。孤兒の。袖。光景。らん。か
 付。酒の。種。情曇彌。緒人。不覚。袖。絞。太子

幼れ御意小無憂樹の花を愛む木の下に。多。寄。鳥將軍を召れ彼花を。よ。と
 仰。小。鳥將軍。故夫人。此花を折。小。御産の。気。終。去。ゆ
 花と。み。胸。塞。泣。左右の。答。忙。傳。居。り
 折節。風。強。村。陣。降。き。鳥將軍。太子を。擁抱。堂内。入。り
 太子。何。花。得。責。鳥將軍。若
 君。小。三年。終。母君。放。此花。ゆ。此花と
 脚。母。雨。厭。風。防。せ。御。行。増。技。人。と
 後。折。練。情曇彌夫人。堂内。妹。后。の。靈。系。供。養
 居。今。鳥將軍。言。身。冷。汗。流。三。年。間。姪。自。所。為
 かり。且。居。起。小。苦。思。終。心。中。懺。悔。慚。愧。の。泪。小。よ
 太子。鳥將軍。言。を。小。諸。八。実。の。母。君。も。何。ゆ。何。ゆ。何。ゆ
 逝去。ひ。同。鳥將軍。妻。是。を。衰。人。思。小。種。言。ん。れ。小。言

尋問し止むがれどせんをなきて花の宮女乃折る右脇より降誕あり後七日ゆく
逝去少の遺言依て夕陽山に葬り無量樹を植へて植へてのあはれり結りてせよ
小を太子稚心小を怨へ思入雨を流すは出に猶彼花を折り得させよ母君と思
且夕小へんと仰せよふとは悲しく一技折り進ません限りて悦びは花籠に挿て
おれせどかめあ斯く長た日も傾たれぬ情曇彌夫人太子を誘ひしより青陽城へ還幸
し其後年月まう太子五才なりむに加冠の儀式あり淨飯王臣下小初て七宮の
玉冠中ひ瑤珞を造て加へし小僧七才なりむむに父王普く天下小船射藝の境
能を召きて太子小射術を学むりあふ小二月を往て悉く技所を究りあふ小射
師大に驚歎し是凡人かく在ると舌を巻り其餘絲竹乱舞を始緒般の技藝を
学ばしあふ小旬日かく温奥を悟覚あふ小を諸人益奇異の思をなぬ借八才かかせ
あふに父王太子小文道を学ばしあふ小思召群臣を聚り維をう太子が文道の師範とあふ
をたれと初問あふ小月卿雲商奉り維彼と其人を撰り論をう小爵頭賢弗小勝る博

学多才の人有るをうと夜議一決し此首奏聞しこれ能く賢弗が方遣り文道と
学むしむる一と先爵頭賢弗を召まう太子の師範とあふ小初授ありあふ小月
景城の中右の首を仰渡されぬ情曇彌敬で領堂へ小勅使小就て回奏しあふ
中う太子御入学乃最上乃御吏小出さる博士の終へ糸りあふ小女官のとも似合し
うと心何事御学ひの友とあふ小女年を擇り太子小扈從まむと願ひ大王
理り小思召維う太子が文道修行の友とあふ小と諸臣小問あふ小星光乃嫡男馬鹿
夷年齢十三才賢明かくて智才小勝れぬ是あふ小如くまむと奏しあふ小星
光臣勅命下り烏陀夷を太子乃扈從小あふ小侍とあふ小星光大の悦ひ
家乃各答言是小過むと敬で領堂へ諸烏陀夷を迎へ招き彼を皇太子の御扈
從小あふ小をう倫命下り是願て中得がは幸福なり能く身を慎む心を竭
して太子小仕まう時御傍を去む俱小文道を学ばしあふ小かく教訓を加へ月景
城へ進ませり情曇彌夫人御悦あり此余俊才の童子十余人を擇出さる

達せる吏有て斯中や覽弗が曰皇太子書を字少初て筆を下し心念点
 盡悉く法小合ひ自然の龍牙虎爪の勢ひを具支亦書籍を用ひて天文地
 理礼則筆數せむの緒道乃理小通むるをなく愚臣が及むる吏遠くは中
 淨飯王亦曰然るを維を太子の師とて之を覽弗肚裡小念中悉達太子已小
 厭離出塵の望在と至我此義を奏共大王敢て信が王但し維那里國香山小住
 する阿私陀仙人の神通廣大乃賢仙をれを渠を招た太子の師範たりて之を決
 定太子乃出家の望在を知り大王亦生れざるを淨飯王其言を信下太子を宮
 中より出し然と皇太子も歡樂小はれ自感成道乃望を斷むるを思惟し
 諸王對ひて曰太子乃師範たる重なる者人間中亦有するを茲小維那里國香山と
 中深山小阿私陀仙とて賢仙乃の神通廣大を通せざる道中よりと大王是を言て
 太子乃師とて之を奉と淨飯王悦び其の賢弗小脚暇むる先千人乃宮人小車
 車を尊らむ太子を宮中迎へ還るを以諸難なる香山勅使小遣ふとて之と群

人成聚て経儀あり小其道數千里小其間大河嶮山りて往安くを維有て恭
 らんとす者か空しく時日を送りたり此時彼阿私陀仙人を香山小在なから天眼通を
 して淨飯王の意を識雲索駕して一瞬の間に毘羅城へ飛来り王宮乃の門を
 門乃監平是を姪とて其名を問小我ハ香山乃阿私陀なり淨飯王我を招むの意と
 知て来りて各監平猶疑を執奏乃公卿小就て斯と奏健し心淨飯王且法
 然且悦び以百官小命を出し仙人を迎へ殿上小緒じて對面し小面熟せんと東を
 而眼星よりひり鬚髮悉く紫やう殆塵俗乃類小ありと大王深く尊敬し其来
 意を詢し之阿私陀曰我前小大王の太子藍毘丘苑無憂樹下小出誕し以三十四
 乃瑞應現じ七歩歩て法経を授けしを聞ひぬ然小爵頭貫弗我を口し太
 子乃師とせしを奏せし渠が時乃方便也我小太子成相せ大王小告る所あり
 んと我亦神通力あり大王乃意を識王宮へ来り願く二度太子小見あり
 と告淨飯王歡喜小勝むを阿私陀仙と伴小密章を促して月景城へ行華あり

情曇彌夫人對。仙翁の来意を示し。悉達太子を召て仙人を礼拜せしむ。阿私陀忙しく抑留太子は三畏中の至尊。何ぞ吾を拜せしむの理ありんか。自起り合掌し。太子乃足を拜せしむ。三度と情曇彌仙翁小對し。願くを神仙太子を觀相し。將來の禍福を示し。多と仰せむ。阿私陀結し。熟意太子乃相貌。中は四肢をく。一賞三嘆し。此君実小三十二相を具足し。又り。王位を踐む。十九小して轉輪王と成む。一切種智をかりて。天人を濟度し。又を。あふ尊や。亦三拜と淨飯王問か。三十二相如何。や。まをい。阿私陀太子を指く。曰。小八頂。豎肉成。二小八眉。間白毫。白軟小。三小八眼。賤牛王乃如く。四小八眼。色金精乃如く。五小八音。声迦陵頻伽乃如く。六小八舌。軟。く。面を覆。後。且耳乃。餘。小至。七小八咽。中。二所。より津液流。八小八味。中。上。味を得。九小八方。頰。車師子の如く。十小八牙。最。白。く。大。小。十二小八齒。白。文。密。密。ありて根。深。く。十二小八甲。甲。平。齒。あり。十三小八肩。圓。好。十四小八身。廣。端。正。十五小八師。子。王。如く。

十六小八兩。腋。下。滿。く。一。丘。珠。の。如。く。十七小八兩。足。下。兩。腋。下。兩。肩。上。項。中。比。皆。滿。字。ハ。相。あり。十八小八皮。薄。く。細。滑。く。て。塵。垢。を受。む。十九小八身。の。色。微。妙。く。圓。淨。檀。金。小。勝。り。二十小八毛。上。小。向。麻。非。青。色。小。して。右。小。旋。り。廿。一。小。八。滿。身。の。毛。小。く。悉。く。一。毛。生。一。軟。小。廿。二。小。八。身。の。從。橫。等。く。汗。俱。盧。樹。の。如。く。廿。三。小。八。陰。藏。相。象。王。馬。王。の。如。く。廿。四。小。八。平。住。兩。手。膝。を。摩。せ。廿。五。小。八。脚。臚。纖。好。伊。泥。延。鹿。王。の。如。く。廿。六。小。八。足。踏。高。く。平。み。て。好。跟。と。相。稱。せ。廿。七。小。八。足。指。合。縵。網。余。小。勝。を。廿。八。小。八。足。跟。實。く。具。足。満。好。廿。九。小。八。手。足。柔。潤。余。人。身。分。小。勝。り。三十小八手足指長く。卅。一。小。八。足。下。十。幅。網。轉。輪。相。を。具。世。二。小。八。足。下。安。下。大。蓋。底。の。如。く。遂。二。小。指。示。し。を。淨。飯。王。感。伏。し。み。亦。問。か。り。朕。が。太。子。已。不。如。斯。好。相。あ。れ。を。福。是。小。過。と。然。し。垂。在。世。に。轉。輪。王。の。か。り。出。家。せ。む。切。種。智。を。な。し。と。す。と。此。兩。端。雪。壤。の。違。あり。朕。衰。老。小。る。人。後。國。土。を。太。子。小。讓。り。身。山。林。小。雨。居。して。風。月。を。翫。ん。と。然。ふ。も。一。太。子。出。家。學。道。せ。む。維。ふ。王。位。を。讓。る。を。願。く。ハ。神。仙。兩。端。乃。内。小。是。乃。是。乃。精。考。て。一。小。と。

仰多小阿私陀寺より天機漏と云ふを遂に知るたのものと各八袖を拂く座を記す
手をもて雲を招き獲て是れ小乗にて虚空小昇り香山をくると云ふ能去なり

悉達太子与提婆達多競技

淨飯王ハ阿私陀仙人ハ飛去り成見かひく心中疑惑を生じ昔廿七耶夫人胎孕三年
小母バ一時百人中ハ一人の相者胎内乃太子と云ふと成道正覚して衆生を濟度せん
と云ふ思へば若此太子朕を捨て出家得道と云ふやと頗る慮を煩し五
百人の女女乃容貌端麗なる者を擇み太子乃左右侍り其遊戲乃説物具と
い事なく且暮歌舞吹彈して太子乃心を慰し且是の快樂をもて厭離の
心を消す人御心なり斯て太子十歳成ると春正月恒例として小弓をもち式あり
淨飯王諸釋種乃貴胄を召其役を定め東方乃大将を悉達太子と副將を
其露飯王乃皇子廣耶太子と其餘百人乃童子の俊才を擇み後ハ西方の太
將を解飯王乃皇子提婆太子と副將を白飯王乃皇子旃陀太子とけく百人

乃童子の奇才を擇み後ハ諸城中ハ射場を構へ終日固く官人四方を走り捷上
小ハ淨飯王出御あり三大臣より月御雲客も後階中列坐し小弓の勝負を
見物と當年ハ日々に悉達太子始く小弓の頭を射り且東西ハ清重王ハ親
戚今日を曠と花美を盡く我兒を射せ烈を正して射場小射り入光景滅小
挑争の笑と云ふ如くいと榮ありてぞんをふる斯く小弓乃式を始る其最初
ハ彈丸の如く四すの玉成り空中ハ投上其落下る或射る法なり西陣ハ
丸を彈心東陣より出く是を射東陣より丸を彈心西陣より出く是を射る
是と魚並通の的小事変り空中より落る王かれは飛鳥を射るより尚進
く進み能射中者ハ偶然玉を射削る者われは是を高敷し其賞衣を
賜かり其ハ互れ西東互小射術をいげ丸を射て勝負を争小東陣より
勝て賞衣を賜者西陣小倍もれ西陣の頭提婆達多年十五歳最
確く玉力有のと云ふ射術ハ五天竺小敵なりと云ふ小絆の連入中ハ射

梅陀太子も提婆小劣まうた荒童子の多。已小西陣の敗せかた。但小怒
氣を生じ。今八東西の小頭副将の勝負をれ。如何して射場駐ま。西人
もの。梅陀太子カ腕を摩。射場小立出。丸を採。虚空通小夜。貴
耶太子。弓箭番て。兵ど射る。小退。丸を射削。浄飯王。諸人。三
答。即ち賞衣を賜。廣耶太子息を謝。亦丸を把。虚空小投。方。梅陀太子
弓箭番て。是を射る。小。丸を射削。落。君臣亦賞。皆物
を賜。此番。勝負。互角。次。西陣の頭。勝負。小。國王。小。及。小。日。小
雲。客。下。小。官。人。小。勝。小。守。小。所。小。西。陣。小。提。婆。小。建。小。多。錦。繡。の。裳。衣。
小。歩。出。小。悉。達。太子。小。一。揮。小。丸。を。把。小。臂。小。小。任。小
虚空。建。小。投。揚。小。魚。双。小。金。剛。カ。カ。れ。小。其。丸。小。下。小。鳴。啣。音。て。半。天。小。流。星。の。下。小
落。下。小。小。息。達。太子。小。百。花。小。繡。小。羅。殺。小。御。衣。小。緋。小。裳。を。小。た。黄。金。の。強。小
小。鉄。箭。前。を。小。は。小。満。月。小。如。小。誓。小。ち。り。虚空。小。向。小。小。射。小。小。守。小。の。丸。を。射。貫。小

地上。小。嘴。と。落。萬。人。是。を。小。感。賞。小。と。声。女。時。小。鳴。小。止。小。り。提。婆。小。太子。小。射。技
を。小。大。小。孩。我。小。丸。を。射。貫。小。と。心。誓。て。此。場。を。去。小。と。意。頻。小。焦。燥。小。箭。前。を
は。小。待。小。り。小。悉。達。太子。小。提。婆。小。憤。怒。小。の。氣。あ。小。成。早。小。察。小。か。何。事。源。小
手。柄。を。小。心。小。念。小。徐。小。丸。を。把。小。投。揚。小。小。此。丸。小。下。小。鳴。小。矢。頃。能。落
下。小。待。小。候。小。提。婆。建。多。小。と。切。放。小。過。小。丸。を。射。小。と。魚。射。貫。小
能。小。只。射。削。小。の。ま。り。緒。人。小。是。を。答。小。と。小。悉。達。太子。小。及。小。ち。り。小。わ。小。れ。小
提。婆。小。頭。小。面。目。小。失。小。心。小。深。小。憤。小。り。小。是。を。遺。恨。小。の。物。小。り。小。諸。彈。丸。小。儀。式
畢。小。次。小。鐵。鼓。的。小。式。小。是。由。童子。小。の。力。小。非。小。也。小。堅。を。碎。小。義。を。表
小。唯。的。小。中。小。成。以。小。高。手。小。と。並。小。提。婆。建。多。小。悉。達。太子。小。彈。丸。の。的
を。射。貫。小。憤。怒。小。止。小。此。度。小。我。鉄。鼓。を。射。通。小。悉。達。小。耻。辱。を。小。人。の。小。意。小
巧。小。梅。陀。小。其。旨。を。示。小。合。せ。數。多。小。童子。小。射。終。を。待。小。已。小。廣。耶。太子。小。番。小
小。射。場。小。出。小。鉄。鼓。を。射。小。的。小。中。小。鉄。碎。小。飛。之。小。梅。陀。太子。小。微。笑



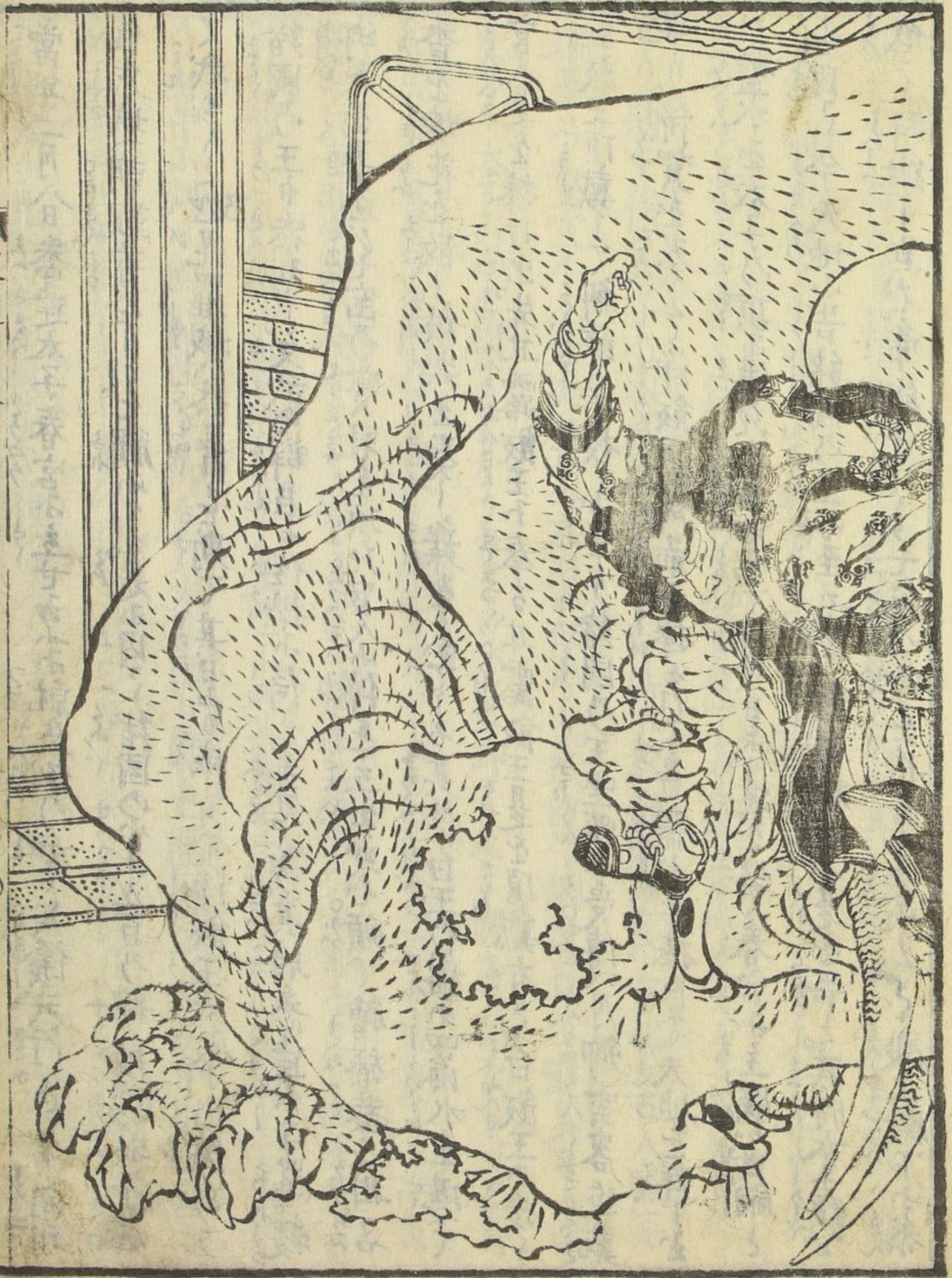
素達太子
諸太子
射術之圖



提婆旃陀
兩太子力競の
圖

徐小出て鉄弓をきりりと音絞矢声とも小切て放さぬ。鉄鼓を射貫り。諸人
是をみて其弓勢を感歎と其次小提婆女達多鵬乃歩が如く寛々と射場小出
握太なる鉄弓を弦弾り鉄箭をまげてきりりと音絞秘を固く矢ど射り
遙く三之鉄鼓を射貫り。満庭人々呵と感。天晴無双乃弓勢かゝり賞嘆
と提婆女より顔小太子の方をみりて本座小回る。今太子のたれむ淨飯王
め百司百官の手小汗握り乾漣を吞ぶ。居る所小太子徐々弓箭を手校り射
場小出。五の絃弾りて左右小對此弓甚小弱。別小強た弓を持き。れ。余ド
小官人承り。強弓七弓を抹出りて奉る太子七弓の中小殊更強た弓をむ
撰出り。五の箭をまは。満月の如く音絞。け。声もも切て放。む。其矢ヒイ
フと鳴り。りて的の中をよ。か。え。七の鉄鼓を射貫り。尚余きる矢巖を穿
忽ち清泉湧出り。上帝王。下甲官小至る。感嘆と。声四竟。小御音。許
ゆ。か。い。と。ま。る。鳥將軍。余の嬉。さ。小坐を起て舞。を。て。り。淨飯王ハ

層感。清。と。太子を。も。提婆女以下乃諸童子小褒賞を賜ひ。人の小酒宴を假
君臣和樂乃。自を催。小。提婆女。二度。の。曠勝負。悉く太子。小。負。る。事。を。直
恨。小。大。鵬。を。把。り。數。杯。を。傾。け。酒。氣。小。乘。り。て。廣。庭。小。狂。ひ。出。悉。達。太。子
射藝。小。堪。能。なり。と。魚。筋。力。小。於。我。小。及。り。力。量。の。覺。あ。る。者。ハ。來。て。氏。と。角。觥。の。勝
負。を。試。よ。と。叫。ひ。多。量。を。受。り。諸。童。子。の。中。小。助。力。あ。る。輩。憎。む。提。婆。女。廣。言
と。か。い。て。や。力。試。競。んと。我。小。と。庭。下。て。提。婆。女。より。合。標。あ。ふ。と。魚。維。あ。り。て。勝。者
か。く。手。足。を。折。り。退。却。を。稱。陀。太。子。の。と。提。婆。女。と。力。量。等。く。更。小。勝。負。を。争。ひ。と。相
引。小。こ。れ。り。悉。達。太。子。二。童。子。の。角。觥。を。力。を。微。笑。小。む。り。丸。を。戲。小。り。を。競。る。と。て
後。客。と。て。庭。小。下。り。提。婆。女。稱。陀。二。童。子。を。一。奇。小。く。各。右。小。撲。左。小。撲。く。勝。負。を
挑。む。小。提。婆。女。悉。達。太。子。乃。奮。力。小。強。た。あ。る。何。事。勝。を。り。射。藝。乃。遺。恨。を。散
び。ん。もの。と。稱。陀。小。目。録。小。精。力。を。厲。り。て。孤。拉。ん。と。れ。と。争。り。太。子。の。威。神。力。小。敵。と。す。べ
丸。兩。童。子。も。終。小。力。衰。へ。大。地。へ。と。投。ら。れ。り。悉。く。も。慈。心。を。以。て。投。受。り。史。二。童。子。の



提婆太子
大象之轡
圖

當年二月八日悉達太子春宮小立せし先例の如く其儀式行せし間列
位京城朝觀有るを觸るる是因に緒國の小王五百の釋種聘物を捧
て我れと迦毘羅城を参著と斯て其日成りて淨飯王大殿小出御あり
緒國の王も参列し文武の群臣も位階小侍も並居り其時悉達太子羅綾
御衣を著む七宝の寶冠を頂戴官人小傳も立出か心頓て繪幡蓋を掛名
香を燒花を散し妓樂を奏し舞をまてり其後白王の盤小四海水を湛て
官人曼を捧げ出先甘露飯王奉る甘露飯王是を頂戴有る白飯王授
白飯王頂戴して斛飯王授く是より緒國の王坐順小受傳へ月卿雲客追戴
畢り祝賀を奏して淨飯王の御前小捧れ帝盤水を捧けて天地を拜し
以盤水を太子乃頂灌死高聲唱て曰今日悉達を以て春宮小立朕が世嗣と
す因に今天地小告緒國の王乃至五百の釋種群臣小是を告く其時太子頭を
低く拜謝し玉む帝御手ばさる七宝の印を授く是より殿上殿下小参

烈の人々一奇小萬歳を唱各王聘物を献上ある其數無數小く珍宝名珠
金銀結帛殿上小一坐の山を築き淨飯王歡喜斜たるとこれ小官
をかし大宴を開く緒王諸臣を饗食應し玉緘芽出さるる光景あり
多り斯く後太子の御威位以前小百倍の花顏柳姿の宮妃五百人風姿
端麗の童女千人昼夜太子の左右仕奉り系行乃綢歌舞の遊具と云
度かく太子の心を慰まらるる太子は却て是を懶おひ玉且又只鳥
陀夷亦し書卷を用たる古今小眼をさし書小其理を究むる尚良
師かれを憂ひ玉快々して樂むるを愴曇彌夫人小此体を見ん心を痛め
玉斯て小氣を結ひ患病を生じ玉を只其意を慰まらるる小不如して太子
の宮中小到り御對面の上仰るる太子頃日顔色勝玉る是宮中の在て
外小出玉る夜をもべ幸ひ時今春の季かれを監毘羅小遊し小
乃花丛中見御心を慰むと練女太子天性至孝小在る母君の御意を育

敬で領掌ありしを情雲彌悦の鳥將軍をきて太子監毘丘死へ
 御出遊乃旨奏申の上園林をより浄め殿宇を莊嚴させ容色勝ま
 女樂五百人を置山海の珍味珍菓備むるの事なく準備十全調へ鳥將
 軍月景殿小啓して太子の光駕を促りたり太子出遊を樂まむがれども母公
 の仰を背んて厭鳥陀夷をとり數多の近臣見重を從(宮轡を回して城
 の東門より出遊しむ)茲小天上の淨居佛悉達太子の悵樂小愛者し本願を
 夫志あらんと疑ひ其心を試んとし神通をもて化て老きとみり羽となり杖
 小とがりてよろくと貴賤男女の太子の行粧を拜見する中小交り路の傍小傳立
 ぢらんと眺居る藝園の官人是を見て大い怒り此老奴何ぞ路頭小さし出て
 太子の御光臨を妨るやと罵り策を奉て嘯と聳老翁ハ強く撃れ其依地
 上小仆則り太子宝轡の内より是を足むひく急小官人を制し是ハ何なる奉
 動そや猥小人をか撃痛むむるをととく從者小命して扶起さしめ諸鳥陀

夷小問く曰是を何者とくいと鳥陀夷答て是ハ老人おていと申太子亦何を老と
 いふやと問申曰此人昔月嬰兒童蒙とくと毎年月傳らんと皮膚衰(血肉)逐小
 疔くくる姿となり餘命幾許もな故小老とせりと答太子亦同かく此人而已
 然や一切衆生皆如斯かるや曰貴賤とも小何人老いざるを凡一切衆生皆彼小翁か
 如くなりいと申太子此幻を中々歎息しむ小実や日月流過して時變ト歳移リ
 老乃至くと電の如し身富貴小して轉輪王の位を保とも焉と頼ふたり人世の人何ぞ
 轉變の世成厭むるやと頻小感慨乃心を生トむ小厭離の舟小物小充て園林小
 出遊とふた脚意失して鳥陀夷を顧て曰く丸俄小心地例なりと今日園遊を止
 るる車を返せと指揮しむ鳥陀夷大い小孩兒是ハ如何なる脚意小や鳥將
 軍園林を掃淨し女樂を毀て專ら光臨を相待小半途より回りかへ大王國
 母の脚意をやがり小不至りいと練をれども敢て承引しむされむ鳥陀夷已更と
 得む官人を以て鳥將軍夷乃眞末を告半途より宝轡を回して月景城へ還幸の

一よりを烏將軍大の望を失ひしもの結構画餅とあり手を空しく立回りの橋
 曇彌夫人の太子の早く還幸ありて成異ひ烏陀夷を遣ひて其友を問ひ小
 烏陀夷隱を度能く有り始末を告上橋曇彌是を憂ひ斯く相者云
 如く太子王位を嗣を好むを出家学道の望ありと安んずるに淨
 飯王右の旨を密奏し以倍游樂の具を増厭離の念を止むんと計ひたり

淨居佛再試悉達太子

悉達太子八園游の道路老者を足り頻小世ををるを以左右の侍る美貌の女
 官を足りし御心とする事なれ絲竹の去るも耳喧くおの只机のり書籍を閱
 偈を作るがて日を送り以淨飯王八日小官人を以太子の行迹を安んずるを
 小更小樂を以休けり晝夜書卷をのり明くし由を以甚く宸襟を惱む
 以何卒其心を練多慰め王位を譲りしを群臣と對り新小城南小山を築れ萬
 國の珍木奇草を集く風流小種を十歩小亭二十歩小樓を建珠玉を奉り

金銀を鑄て花麗を尽し嶺小灘を落し林廓小流を湛し山水の奇觀描をせふ
 如く造管太子の游覽を備ふ其巧已小畢れ烏將軍太子小錫し假山成
 就の由を告光駕を促しもる太子此程引着ての居む外遊を悦び以
 烏陀夷を遣ひ兒童女官を從城の南門より出以淨飯王先太子出遊の路
 老者を以樂むを車を回し以を思召此度六緒外吏小令太子通行の路
 上老人病者至汚穢不淨の者を固く禁し拜見の男女才より二十才を限其餘
 八拂以除道路を淨り花を捧香を焼し若老人病者不淨の者を在りわむ
 灑掃の外吏を罪科し重く刑を以勅掟ある是小依て諸外吏畏り王命の旨を
 人民觸り行幸の道路小塵一を以増て老人病者嚴ふ以除り
 然小淨居佛亦太子の逸樂小着道心失ふて其心を拭ん病者と
 化して身瘦腹脹小肉枯骨露顔色黃痿呻吟して路の傍小悩目擊圖の
 官人是を以大不踐た王命嚴く前より老人病者不淨の徒を路上小在り

まどと籠りて何か左の汚穢の者を置きて罵り強だ急小是を迫退人
 太子早く宝輦の内より官人亦を制し黙と見せ小已小死小向たる形相られた
 甚く憐の御心生じ鳥陀夷を召て是は何者ぞと向せ鳥陀夷答て是病人中ぐ
 太子亦何れ病者といさと向せ曰此者とは壯健なりと魚嗜欲小耽り飲食の
 度小依て四大綱を遂小病を發し百節疼痛して氣力衰五味味ひなく起居
 安んず手足有と魚自く動働と能く終小死亡と至りしや太子安んず
 又向せ此者一人の病あるや一切衆生も皆病ありや答て曰一切人民貴となく賤と
 嗜欲を著た飲食を慎され皆如斯病を發し太子はく歎息し小人
 間くは一大難あり如斯の病者となし富四天下を保貴と博論王とも何ぞ
 特不足ん世人此大難を抱か何ぞ逸樂小荒を飲食を貪中と深く怕小憂愁胸
 小死て假山遊覽の御心消失鳥陀夷を召て今日も亦心地煩ハられ是より還幸と
 下と白鳥陀夷大い小死れ是如何かも御意也先小老人を召て園林に到り小宮

輦を回され母君の御心を安んず今日亦病者を見せ御車を回し小
 不孝の罪のれ小君深窓小在いま老人病者を見せ御身の汚
 ろ如く思召も是ハ普く世小有る小尋常の事と思召只假山御遊覽
 あつて御心を慰ふ是大王も御孝行中いと練なる太子ハ淨居佛乃為小
 屬され厭離の心信深く敢て遊樂を離れ小鳥陀夷中如く先小平
 途より回りに橋雲彌夫人の意小背た今亦半途より回りて又大王の睿慮
 小背くも実小不孝の子中罪を謝し入道なりと思及し心か小御承引
 小曲菓を召て病者小医薬を絶し与假山至り小鳥將軍大い悦び半
 途より出迎り宝輦小隨逐し一亭上樓し小御車を止く種々小饗食應し
 歌舞吹彈ハ小更けり百般千般の遊樂を召て太子を慰する然れ小太子ハ
 玳瑁佳者小御心とす女樂美婦小同を召り小咲散花を足て小龍花
 落葉の魚常を觀し飛泉流水を見せ小光陰の移るも猶是より速る

とありまたおひ左右して日中稍西傾たれむ鳥陀夷を召く還幸を命じ又鳥
 將軍ハ王命を奉りしれむ尚哉日中御車を留めしむと種々練せられ曾て承引
 一むつ袖を拂く寮の御馬小召れ從者小前後を守りせ還幸なり又さる
 淨居佛此時まご思ひ入り已ふ老人病者と化して太子の心を綫つ今亦死相を
 愈其道心を熾ふせん其あれど衆人小刀を事を得せしむ外吏の糾く刑を加
 無辜を戮せしむ至人不如太子鳥陀夷二人のまごを得他の者ハ命を
 かくるんが如斯思惟し神通を以て死者となり還幸の道路小横り伏るの
 鉢呼吸已み断色相悉く土色と斐りももせし形相なり然も緒人の眼みん
 えを太子と鳥陀夷との眼小遮りぬ太子馬を傳く鳥陀夷を顧みん是之何
 者ぞと問ふ鳥陀夷賢た者なれむ肚中小サる已ふ老人と病者と有る我其然
 所以を告太子の御心を煩くしむるれ此回ハ不知とやと答ふし淨居
 佛早く其心中を察し神通力を以て鳥陀夷の心を放心させ不覺しく答を
 あり

む是小依て太子の再び問ふ時鳥陀夷我を忘る是死者とくいと答太子は向
 かく何故死しやと問ふ曰それ死と謂ふ神去呼吸断く地水火風の哭散五身
 府燭を至りし人世小在て五欲を擅り錢財を貪り積聚し其知る無常
 故とく已ふ刀風の為形を解き死路小赴て又母親嗔怒と惜し其甲斐多
 尺拈る草木の如く不日して朽果いかりとや太子安て亦曰く唯此人の
 衆生も皆然や鳥陀夷尚神通小厲され冬て曰豈此人の限り死王侯貴族より
 下民卑賤小至す一人由死を免る者ハ何とや太子安か御身小冷汗を流し
 曰く世間已如斯の死苦有る一瞬の間由安心をなす世何人何とや大苦悩
 を抱ふる色食小愛著し放逸の行をの好やと歎息し又事止む快
 て月景城回り看ふ嬌曇彌夫人ハ太子假山へ出遊し必も旬日滯留御遊
 有ると思召く小只半日小く還幸しむ心悦むと潛り鳥陀夷を召れ太
 子假山へ出遊し以樂み今否やを問ふ鳥陀夷隱こ能る行幸の路上

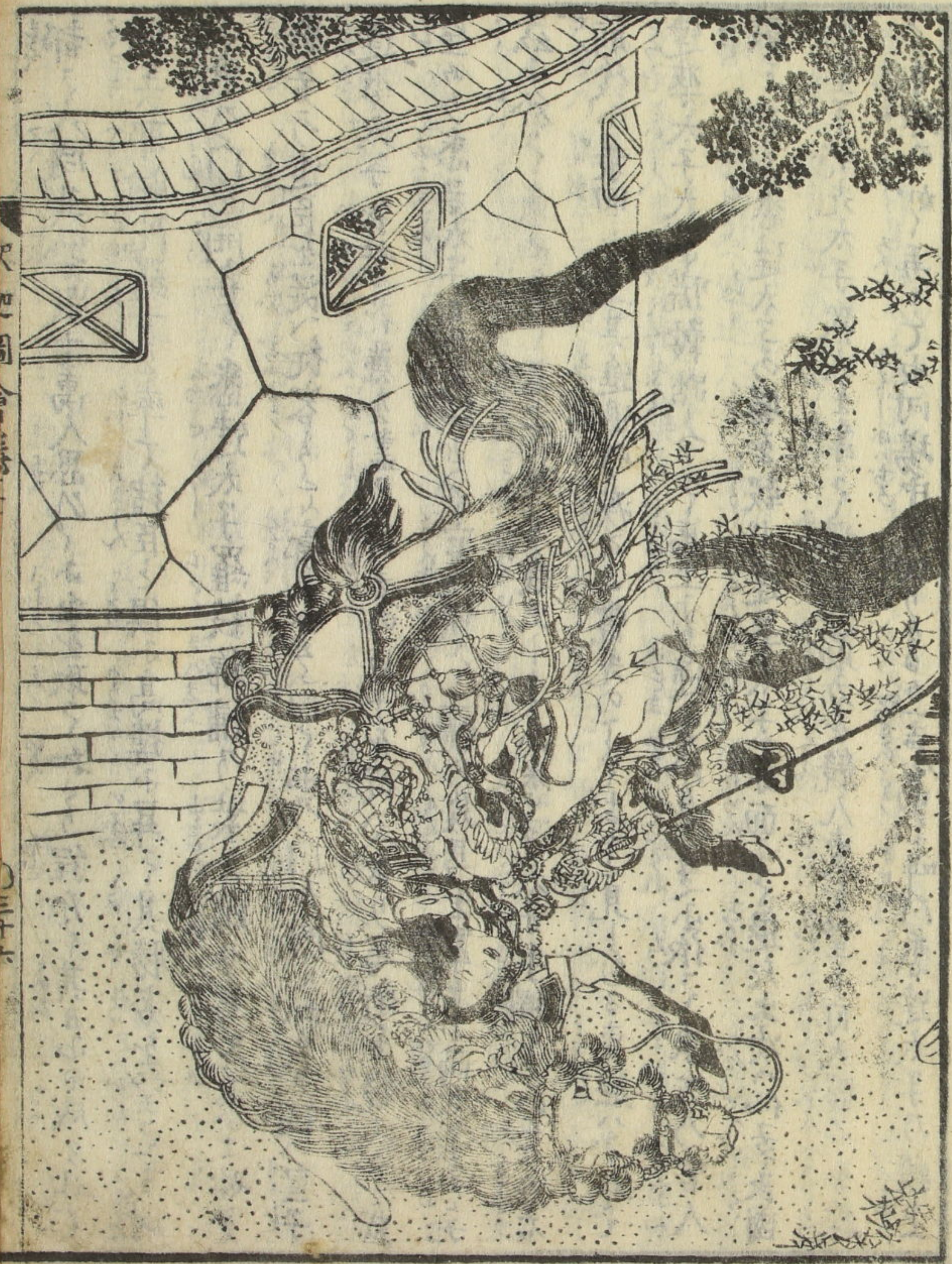
病者あつて太子の御心を煩へり。太子は還幸あらんと仰しを種々練進せ左右とて
 假山行幸なり。百般の游戲をなして慰進せしむ。樂とて休を唯ふが
 ち早く。還幸を促し。太子は已更を得て御車を還し。路の上
 小死者有て太子を愁し。言上を憐曇。孫未だむ。藍鬼屋苑。御遊
 の路。老者あつて車成還し。太子は此回。大王の勅。捉て。路の上。老人病者不浄
 の者を在せし。嚴小觸をせむ。何ん病者乃至死者を足ぬ。是外吏の忌
 かりと。其旨。王宮。奏。有る。浄飯王甚く。逆鱗あり。外吏を悉く。聽。可。日。せ
 官人。小。命。罪を糾。せむ。外吏。ホ。を。陳。下。官。亦。大王。の。勅。命。と
 重ん。嚴。老。病。不。浄。の。者。を。拂。除。何。國。より。も。忽。と。病。者。出。現。
 何れ。然。も。何。里。の。者。も。知。者。其。踪。跡。も。た。れ。亦。還。幸。の。路。小。死。者。の。在
 由。絶。る。者。も。ん。是。ハ。跡。を。絶。奏。す。と。怖。く。や。る。小。子
 官人。其。旨。を。奏。達。し。浄。飯。王。訝。り。太子。の。供奉。小。命。官人。を。召。し。結

向し。外。吏。が。首。と。等。維。有。て。死者。を。人。と。者。を。れ。浄。飯。王。心。地。ま。い
 む。是。ハ。必。と。天。魔。破。旬。の。障。碍。を。外。吏。が。罪。を。恕。む。其。後。群。臣。と。聚
 會。て。宣。う。朕。が。太子。年。已。十六。亦。百。般。の。技。藝。通。達。せ。と。事。ふ。れ。も。只。歡
 樂。心。を。傳。む。且。夕。書。卷。を。の。説。ハ。快。なる。ハ。自。然。先。年。相。者。考。如。王。位。を
 踐。し。欲。せ。と。出家。学。道。せ。ん。望。か。く。朕。が。血。脈。を。絶。て。慈。慈。賢。王。より。纏。綿
 して。擇。種。の。天下。他人。の。有。と。方。々。御。等。然。る。高。議。して。太子。の。道。心。を。退。け。王
 位。を。嗣。だ。ん。針。針。と。宣。旨。有。る。諸。臣。勅。命。を。奉。り。冠。を。傾。け。各。慮。を。回。す
 所。小。月。光。臣。位。階。を。進。出。臣。熟。愚。意。を。回。し。太子。已。成。長。一。む。亦。宮。妃
 定。り。む。是。小。依。て。自。然。御。心。結。ぶ。樂。と。む。出。塵。の。御。志。由。萌。ふ。ふ
 たり。慈。を。普。く。天下。小。佳。人。を。需。く。宮。妃。小。備。む。自。然。愛。憐。の。御。心。生。して
 学。道。を。止。まり。宝。位。小。即。む。を。奏。と。る。諸。卿。由。此。儀。絨。小。卓。論。り
 一。高。小。浄。飯。王。を。悦。び。慈。を。緒。國。の。王。小。命。を。傳。て。太子。の

入愛女耶輸陀羅女小對一戸伽陀國乃淨飯王其太子乃為小你之娶人不知
汝昔之や不口やと向耶輸陀羅女依之とて曰傳は戸伽陀國王の太子降誕の
時三十四の奇特瑞應あり成長て天文地理算數をち百般の藝不學して通達
し人として是立天竺の一人の聖主なるべし速小婚儀を結ぶべし又王曰是また隣
國の王各太子の為小汝を娶んと使者を遣て越者都て八國然と申汝悉く承引
とせ今遠く戸伽陀國王と婚儀を結ぶと恐る隣國乃王怒て兵馬を發し
攻來る此難を奈何とせん耶輸陀羅女曰是憂るも不足悉達太子を清し
隣國の王小觸る悉達太子と緒般の善をく勝せん人小小姐を娶るべしと
云せむ八國の太子悉く聚りきこん而て悉達太子と技藝を闘ひ必
八國の太子勝ると能く自耻と國回を其上りて戸伽陀國と親を結ぶ敢
て恨を懷者いふととふと又王手拍て大に感し我が女能く好して即ち
客殿小到り右梵士小對面一右の一五二十を統と一遍と右梵士まで是何より

安し別を告る本國を回リ淨飯王小錫有麒麟未を回奏しこれ此義
如何わんと思ふも先太子を召て迦夷衛國王乃云おひむたを告め太
子何とぞ思召え一儀も及む承引し是は依て淨飯王十萬の四兵を發し
て太子を護護をも迦夷衛國小赴しち此旨達てまえを彼國王遠く迎接
し城中小結了て太子の相貌を乞ふ小三十二相具足し光輝をくられ大に
歡喜し耶輸陀羅女を呼出て太子を拜せむ耶輸陀羅女一度太子乃王貌
を乞ふと眼瞬と太子小此女を乞ふ笑を造りかひ把勢珊瑚の物を女小
賜妃故て是を返しをり妻小只君の徳を慕ひ敢て室を負りぬとて中
々る太子其初をゆく婦徳を感し人國王城外小方四十里の廓を構鐘と
鳴し鼓を拍り國中小卿音維あくも我小小姐と婚を結ん欲する者七日乃
後吐場小来く藝術を闘せよ技乃勝たる者を女婿とせんと隣
國の王傳せ各數萬の兵をよて太子を傷各伽夷衛國の都城小聚る者

悉達太子迦夷衛國
達太子
馬術を
競全
之圖



都々八國其勢數十萬人思ひ小屯を取てわたり程なく其日成多れむ
國王八耶論陀羅女を率て諸臣と俱高樓小昇其勝劣を望むる時
小東乃門を開せし衆達太子羅毅錦繡乃裝を飾り鳥を射る始
數多の進臣を従へ従容として廓不入ふ門を西乃門を開く私良國の皇子
達婆太子衣壯花麗を盡く許妻の臣下を従へ來り馬術を競入る成
望り悉妻太子是を結むる官人頓く二領の駿馬を牽出り兩太子小
茲小於く東西奇く馬上小跨り乗出り々々小悉達太子手綱をうへり左右
前後小兼回り其進退乃疾く電光のごとく去る見とひる衆能はされむ
達婆太子大い慌鞍踏々々馬上より逆小落たり是小後々東方の官人
鼓を拍く悉達太子の勝を報じ達婆太子赤面々々退れ出次ハ仙妻良國
の皇子欲光太子衆人を牽く場小入勅力を競入吏を望む向大盤石を採
り手球の如く弄りて女河場中を回リ々々一声高く叫び悉達太子乃頭上

を臨み投はす氏太子徐小右の手瓜以て受面天を望み投り小般石鳴響て
空裏小昇り霹靂の如く燄光太子頭上墮下る燄光其勢小碎易し身を
翻り狩の外へ進退たたり其次ハ左破利國の皇子静觀太子場小入尊數
を問答せん吏を望樹木藥草衆水滴敷或日月星辰乃度數中ハ天门地理
八萬乃異術小至る進退是を問小悉達太子一々是を年々小事指して流水の如く
一言半句も滞り玉ふかれ静觀及んで引退り其次ハ阿耨耶屈國の聖王太
子場小入射藝を問入吏を望む是小依り官人三百歩小鉄鼓を擊つ物
其數十鼓なり聖王先弓を輝級く是を射る小五乃鉄鼓を射貫り其時悉
達太子徐小立玉ひ弓を執り弦弾し小亦弓甚く弱くされ玉弓も亦
玉ひ別小強弓を需む國王宝藏より黄金乃弓を取らさせ太子小授ちて曰
此室弓右より納射といふも魚隻の強弓かれを敢て用る者ハ太子試み能く射
とすされなきを即ち執り弦弾し是より丸が心合りて鉄箭を採りてうら番

満月の如く無事あり兵と致す其箭羽等して的中十鼓を悉く射貫りて是を
を以て取立太子其及むるは漸閉して引退く其小國の太子書言官統の
緒藝を競ふ一人も悉達太子小勝る者なれば各慚愧して從軍を引其國々へ
そ回りける迦夷衛國王大悦ハ太子を大殿に結して酒宴と催して重く食應
婚儀を約して五萬の軍馬を以て迦陀國へ送りし淨飯王ハ太子八國の
皇子と技術を闘ハ婚姻を約して回すりとすむひく歡喜小勝るを太子如斯緒
皇子と争て新宮を取ら必並其意小合しあり出座乃心自止るして功室
結帛敷を盡く聘礼を尊し迦夷衛國小勅使を立車千乘を以て耶輸陀羅女
を迎へし月景城の裡小新宮を造營し博士小命て吉日良辰を卜せ龜鶴の婚姻
を取結せむひたり是小依て淨飯王嫡曇殊夫人年未憂愁乃昔を安んじむ満
朝の月卿雲客を以て民間の未まぐも皆萬歳を唱悦勇まどと以者たり

釋迦御一代圖卷之二畢

